

一・次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

〔尚美は中学三年生。絵麻、伊原とは幼稚園から一緒だった。〕  
同級生たちは、いっどんなどに、何をきっかけにして、進路を決断したのだろう。

周囲の空気の変化に、自分もちゃんと考えなければと焦る気持ちになりはしても、一体何をどう考えればいいのか、ぴんこない。

行きたい学校と考えるのはどうにも無理がある。毎日目まぐるしく変化し続けるのが日常だし、校風や伝統など通信販売の宣伝文句と大差ないものにしか思えず、どんなに素晴らしい環境であっても、これもやはり自分がそこに馴染めるかどうか重要なことから、決めようがない。結局は自分次第だ。

「正しいよ。ここなら馴染めそうって予想しても、教師との相性とか、クラスの顔ぶれとか、自分の状態でも全然違ってくるんだし、期待してがっかりするより、何も考えずに近い学校って選び方できるのが、そもその公立の教育の、いいところだしよ。」

尚美の考えにそう賛同したワタル（尚美の現在つきあっている年上の恋人）は、アメリカの大学を出たのだと聞いている。進路について相談しても、ワタルは「ははは」と眩しげに目を細めて笑うだけで、これというアドバイスはしてくれなかった。だから尚美は、絵麻が伊原の進路に「興味ない」と言うのを聞いて、自分がそう言われたように傷ついている。

「自分のこと決めるなんて、大人にだってできないのに、なんて中学生とかに考えさせるのか、どうにも納得がいかない。」

自分の人生の何かを決めてしくじったと後悔する大人は多いだろうに、大人でさえしくじるような決断を中学生がうまくつけられるはずなどではないか。

絵麻は「うん、うん」と頷いたが「だから余計にそうなんだと思うけど」と言った。

「今のうちにしくじって、大人になってからしくじらないようにってことなのかな」

尚美にはどうも納得がいかないのだ。

絵麻が、今度は首を横に振る。「きつと百歳になっても、自分で出す決断なんて、しくじりばかりだよ。だからさ、しくじり慣れるために、今のうちからしくじつとけ、って話じゃないの」

くすつと笑う絵麻は、今は歌わなくなってしまった母親のことを思い浮かべているのかもしれない。

「そっか。しくじらないように経験してくわけじゃないのか」  
今度は尚美にも納得できた。

「そうだよ。しくじるのが前提なんだもん。だから、よりよい決断なんかしなくてもいいじゃん」

絵麻が、白い歯を見せて、にこつと笑う。そう考えると気楽だ。自分のことが決められるような気がしてくる。

どうせ大人になっても決断に後悔することはあるのだし、大人になるほど、しくじることが怖くなるだろう。

決断が必要になる場面を避けて通るようになるのかもしれない。きつと大人になるほど失うものが増えるのだから。

子供の頃からたくさんしくじって、失敗のあとの後悔や傷心

に慣れて、いずれは諦めや挽回の努力に結び付けられればいい。50  
から、しくじり一つで絶望してしまふ。

考えるほど、絵麻の言うとおりでと思った。しくじり慣れた人生の方がうんと図太い。

絵麻が恵まれた容姿や頭脳に頼り驕ることなく言う「しくじることが前提」という言葉は、尚美にとって、素晴らしい啓示に思えた。

〔前川麻子「パレット」による〕

(1) 線①「校風や伝統など通信販売の宣伝文句と大差ないものにしか思えず」とありますが、「尚美」にとってどういう点で「大差ないもの」と思われるのですか。最もよいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 中身は実際とちがいが、欠点だらけである点。
- イ 本当の姿ではなく作られたイメージを見せている点。
- ウ 知っていることばかりで、新鮮味のない点。
- エ 内容がよくわからず、なやむことが多い点。

(2) 線②「だから余計にそうなんだ」とありますが、ここでの「だから」は何を受けての言葉ですか。最もよいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分のことを決めるなんて大人にもできないこと。
- イ 大人は中学生がしくじらないように願っていること。
- ウ 自分で決めて失敗したと後悔する大人が多いこと。
- エ 大人もしくじるような決断を中学生にさせること。

「納得がいかない」とありますが、どのようなことに「納得がいかない」のですか。次の□にあてはまる言葉を文章中から書きぬきなさい。

□が、□の□のことを決めなければならぬこと。

□にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 努力は必ずしもむくわれないと考えている

イ 大人は絶対に間違えなれないと思っっている

ウ 自分の思いどおりになるものはないと思っっている

エ 成功の人生を無意識に想定している

(3) 線③「しくじることが前提」という言葉は、尚美にとって、素晴らしい啓示に思えた」とありますが、この言葉を聞く前と聞いた後で、尚美の考え方はどのように変化しましたか。次の□にあてはまる言葉を文章中から書きぬきなさい。

聞く前は、中学生のうちに自分のことを決めるのは、大人になつてから

ためだと思つた。

聞いた後は、

ためだと思つた。

自分で決めて、しくじってもいいのだと思うようになった。

(6) 「絵麻」は「尚美」にとってどのような存在だと考えられますか。最もよいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア つなぎ止めないと、はなれていきそうな親友。
- イ おたがいに自立して、もたれあわなない親友。
- ウ 聡明で、決断をゆだねてもいい親友。
- エ 尊敬でき、たよりがある親友。

二・次のぼう線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字にしなさい。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1. 新幹線を利用する     | 1. ガツキをひきながら歌う   |
| 2. 仏教の教えを広める    | 2. 母はハタラき者です     |
| 3. 交通事故に気をつけよう  | 3. ムリなことを言うな     |
| 4. 学力の水準が低い     | 4. あっけないケツマツ     |
| 5. 早起きの習慣をつける   | 5. 先生方のカイギが開かれた  |
| 6. 税金をおさめる      | 6. 父はエイゴがしゃべれます  |
| 7. 体の状態がよくない    | 7. オキナワ県へ旅行する    |
| 8. 逆転ホームランを打つ   | 8. 毎日のクンレンをつみ重ねる |
| 9. 紙の容器に入ったミルク  | 9. クラスでサイコウテンです  |
| 10. 高い評価を受ける    | 10. セツキョクテキに発言する |
| 11. おじさん一家と同居する | 11. シゼンを大事にしよう   |
| 12. 彼の考えを支持する   | 12. この手帳はペンリですね  |
| 13. 明日の天気を予測する  |                  |

三・次のそれぞれの文の□の述語に対する主語を、線部から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |          |     |        |      |       |   |   |
|----------|-----|--------|------|-------|---|---|
| ① アさわやかな | イ風が | ウそよそよと | □    | ふく。   | ( | ) |
| ② アかの女の  | イ歩く | ウ姿は    | エとても | きれいだ。 | ( | ) |